

瀋陽駐在員事務所

第5回全国金融工作会议

7月14～15日の両日、北京において『全国金融工作会议』が開催され、中国国内で大きなニュースとなりました。同会議は、1997年の初開催以降、今回で5回目。同会議では、過去において、「国有銀行不良資産の処理」、「国有銀行株式制度の改革」、「監督管理体制の構築と強化」、「民間資本の金融分野への参入」等の重要な政策方針が決定されてきました。

現在、中国では、銀行業は「銀行業監督管理委員会」(銀监会)、保険業は「保険監督管理委員会」(保监会)、証券業は「証券監督管理委員会」(証监会)がそれぞれの業界を指導管理しています。しかし、2013年頃から、インターネットバンキングが大きく発展し、また影の銀行(シャドーバンク)等の影響により、各業態を跨ぐ資金の流れを把握・統制することは難しくなりました。

このような状況下、習近平国家主席は「金融の安定は、国家の安定」と宣言し、『国务院金融安定発展委員会』を設立することを決めました。同委員会は、中国人民銀行(中央銀行)、銀监会、保监会、証监会の連携を強化して、「金融が実体経済に貢献すること」、「金融リスクを抑制すること」、「金融改革を深化させること」の3つの目標を掲げています。具体的には、(1)本業に回帰し、国内経済の発展に貢献すること、(2)金融市場・金融機構・金融商品の体系を改善すること、(3)監督管理を強化し、金融リスクの防止・解消能力を高めること、(4)市場のニーズを把握し、健全な市場を形成することの4つを挙げています。

今回の会議では、金融リスク防止を重視するほか、対外開放の拡大、人民元国際化の推進、資本の自由化などにも言及しており、今後、巨大マーケットである中国金融市場の改革開放が進むものと思われます。

張 璐

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【サハリンGO】

日付	場所	
5月 日	アニワ湾	ホッキ貝、大漁。浜焼きはもちろんのこと、韓国系ロシア人自慢のサムギョブサルが絶品。帰宅後、ホッキのさばき・保存方法を習得。8秒間お湯にくぐらせすぐに氷水でしめるのがポイント。
6月 日	ブッセ湖	手のひらサイズの牡蠣食べ放題。ローカルのロシア人が何気なくテーブルに置いたのは、タラバガニとモガニのとれ・ゆでたて。
6月 日	プリゴロドノエ	ウニ・昆布、大漁。全て馬糞ウニ(ロシア語では緑ウニ、上品なネーミング)。昆布を自宅で干したものの途中でカビが生え断念、高級昆布の価値をあらためて認識。

以上は、私の日記のほんの一部です(日はもちろん休日です)。自然が魅力のサハリン、道産子の私も驚かされます。観光は間違いなくサハリンのキーワードです。



観光カードゲットだぜ!

最近、当事務所が入居する「北海道センター」に観光案内所ができました。その名も「Go Sakhalin」。無料で観光カードを入手できます。コンパクトにまとまった観光マップを片手に散策もいいですね。某人気ゲームも流行りました。モンスター入手スポットは多くはないものの、レアキャラがいるとかいないとか? 何はともあれサハリンGo!



Go Sakhalin

達田 暢

ウラジオストク駐在員事務所

ロシアの子供たちの長期休暇の過ごし方

ロシアの学校制度では、学期末が5月末であり、新学期が始まる9月までの3か月間が長期休暇になります。日本の学期末の休暇が3月下旬から4月初旬までの数日間であることと比較すると、非常に休みが長いのが特徴です。

では、その期間、ロシアの子供たちは休暇期間をのんびりと過ごしているのかと思いきや、当地独特のユニークな制度を活用して、貴重な経験と多くの知識や友達との思い出をつくっています。

それは、「ジェーツキー・ラーゲリ(子どものキャンプ)」と呼ばれる制度であり、各地の学校の子供たちが、親元を離れ、数週間にわたって共同生活を一緒に過ごしなが、スポーツ、歴史、言語など様々なテーマ別のプログラムで勉強などを中心に、寝食をとるといふものです。ロシアの子供たちの約半数はこれに参加しているとされています。

なお、極東管区最大の「ジェーツキー・ラーゲリ」は「オケアン」と呼ばれるキャンプであり、ここでは、ロシアの子供たちはもちろん、日本を含む海外の子供たちも合同で海外の言語や文化を学ぶことができます。国境を越えて多くの子供たちが生活することで諸外国への理解に資しています。

若くしてお互いの国の語学や文化に触れた子供たちが、将来の日露間の交流を一層盛り上げてくれることが期待されます。



山崎 龍人

北陸銀行バンコク駐在員事務所

注目される「タイランド4.0」

普段は食や観光といった身近な話題をお送りしていますが、今回は現在タイで話題となっているタイ政府の長期ビジョン「タイランド4.0」について情報をお届けします。タイがどんな国を目指そうとしているのかが良く分かります。

タイランド4.0とは、IT等のイノベーションを駆使し、商品やサービスの付加価値を向上させた次世代産業を振興しようとするタイ政府の長期ビジョンをいいます。タイは、第二次世界大戦以降、農林水産業が中心のタイランド1.0、軽工業が中心のタイランド2.0、重工業や自動車産業が中心のタイランド3.0を通じて経済発展を遂げてきました。しかしながら、ここに来てタイ国民の所得も足踏み状態の「中進国の罠」に陥ったと指摘する声もあります。

これを打開すべく、タイ政府はタイランド4.0を掲げたのです。タイランド4.0では次世代自動車、バイオテクノロジー、最先端の食品などの10の産業分野をターゲットとし、タイ政府は、これらの産業を外国から誘致すべく、東部経済回廊というバンコクより車で2~3時間のエリアに約5兆円をかけたインフラ整備を計画している他、税制優遇や外資規制緩和などのメリットを多数用意しています。



2017年2月セミナーにて
プラユット首相自ら
タイランド4.0を説明

吉田 雄司

日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

「捨てられる銀行 ~中国編~」

「約 300 万人の銀行員はリストラ候補だ」

これは、先日あったネットニュースの見出しで、中国大手四大銀行が昨年度だけでなんと約 2 万人の行員をリストラしたことを報じたものです。

中国ではネット決済スキームが急速に発達しており、引出・送金・支払などはスマホを利用すると手数料ゼロで行えます。銀行は、伝統的な銀行業務でお株を奪われ、収益確保のためにリストラに躍起になっていることから、日系新聞社は「大手銀行でリストラ相次ぐ、中国バブル崩壊か？」と取り上げていましたが、中国の銀行の実状は少し異なるようです。

中国国内銀行のアナリストによると「行員の構成は、外国の銀行は渉外・融資係等が 60~80% 占めているのに対し、中国の銀行は僅か 20~30% に留まる。2004 年以降増益基調の大手銀行各社は株主からの圧力により、今後も多すぎるロビーマンや営業係のリストラは継続するだろう」と人員過剰をニュースの中で指摘しています。

小職もニュース後に銀行を訪れてみましたが、確かに人員過剰の印象です。日系メディアは、リストラ = 不況の方程式で伝えていましたが、人員最適化に向けたリストラは同業界の人間として心苦しくも適切なような気がします。

村田 雄亮

過剰気味なロビーマン



北海道 ASEAN 事務所 (シンガポール)

シンガポール独立記念日

8 月 9 日はシンガポールの独立記念日であり、今年は 52 周年になります。今でこそ GDP アジア第 1 位となったシンガポールですが、建国から今日までの道のりには多くの試練がありました。マレーシアと統合したものの、マレー人優遇政策を採ろうとするマレーシア中央政府と軋轢が激しくなり、マレーシアから追い出される形で独立。天然資源が全くない中、人的資源を活かして物流・金融・観光などを中心に国を発展させ、現在の豊かさを実現してきた歴史があります。そのため国民の多くはサクセスストーリーを実体験しており、毎年独立記念日は盛大にお祝いします。

今年の記念日のイベントはマリーナベイサンズ周辺で開催される予定です。様々なイベントが行われる予定で、目玉としては記念パレードや戦闘機による航空ショー、花火があります。現在国内では準備・練習に余念がなく平日・休日問わず戦闘機が轟音をとどろかせ飛行しています。

当日のパレードのイベントチケットは抽選になっており、シンガポール国民と永住権保持者しか当たらないようになっているようです(噂ベースですが)。残念ながら会場に入る事は難しそうですが、市内のお祝いムードを見て回るだけでも十分に楽しめます。

佐伯 亜耶



練習の様子



オフィスビルのエントランス